

原子炉実験所だより

目次

1. 平成3年度共同利用研究の公募について	1
2. 平成3年度ワークショップ、専門研究会の公募について	1
3. 平成3年度上半期臨界集合体実験装置 共同利用研究の公募について	1
4. 平成2年度下半期臨界集合体実験装置共同利用研究の審査結果	1
5. 高中性子束炉(2号炉)計画の撤回と京都大学 原子炉実験所の在り方検討委員会の設置について	4
6. 将来計画短期研究会の開催について	5
7. 原子炉利用研究者グループ総会の開催について	6
8. 第25回原子炉実験所学術講演会プログラム	7
9. アニュアルレポートの原稿募集について	11
10. 平成3年度原子炉実験所一般(施設)公開	11
11. 外国人研究者の受入れについて	12
12. 外国人研究者講演会報告	12
13. 審議員の異動	12
14. 運営委員会委員名簿	13
15. 臨界集合体実験装置共同利用委員会委員名簿	14
16. 平成2年度非常勤講師について	14
17. 職員の異動	15
18. 委員会メモ(平成2年8月~10月)	15
編集後記	17

1. 平成3年度共同利用研究の公募について

平成3年度の共同利用研究の公募につきましては、既に公募の通知文書を各研究機関に送付しております。締切日は平成2年12月7日（金）（必着）となっていますので十分ご留意願います。

なお、不明の点や申請用紙のご請求は共同利用掛（Tel. 0724-52-0901 内線2151、2152）までご連絡願います。

おって、今回の公募の主な変更内容につきましては、本誌No. 8（2年9月号）の10頁をご覧ください。特に、本年度からは通年の採択を通例としますので、10月～3月の下半期だけの公募通知は改めて行いませんのでご注意下さい。（下半期分だけの申請の締切日は平成3年6月14日（金）（必着）となっています。）

2. 平成3年度ワークショップ、 専門研究会の公募について

平成3年度のワークショップ、専門研究会の公募につきましては、来年1月下旬頃各研究機関に公募通知をお送りする予定ですので、ご注意下さい。

3. 平成3年度上半期臨界集合体実験装置 共同利用研究の公募について

平成3年度上半期臨界集合体実験装置共同利用研究の公募を平成3年2月4日（月）を締切日として行っています。公募書類のご請求やご照会は共同利用掛まで。

4. 平成2年度下半期臨界集合体実験装置 共同利用研究の審査結果

臨界集合体実験装置共同利用委員会において申請のあった9件について審査の結果、全件採択となりました。

臨界集合体実験装置共同利用研究採択一覧

申 請 者 ・ 協 力 者			実 験 課 題	区 分
氏 名	所 属 ・ 職 名			
竹田 敏一	阪大・工	助教授	KUCA臨界実験解析	共同 通常
藤本 博之	〃	院生		
苗村 昌嘉	〃	学生		
平川 直弘	東北大・工	教授		
岩崎 智彦	〃	助手		
須山 賢也	〃	院生		
山根 義宏	名大・工	講師		
三澤 毅	〃	助手		
安井 肇	〃	院生		
安藤 真樹	〃	〃		
小林 啓祐	京大・工	助教授		
菊池 裕彦	〃	院生		
筒口 拳	〃	〃		
小川 善弘	近大・理工	助手		
神田 啓治	原子炉	助教授		
代谷 誠治	〃	助手		
宇根崎博信	〃	〃		
橋本 憲吾	近大・原研	助手	2分割炉心体系における反応 度測定の検出器位置依存性の 検討	共同 通常
大澤 孝明	〃	助教授		
山根 義宏	名大・工	講師		
三澤 毅	〃	助手		
神田 啓治	原子炉	助教授		
林 正俊	〃	助手		
代谷 誠治	〃	〃		
木村 逸郎	京大・工	教授	炉内ガンマ線の測定と解析	一般 通常
金沢 哲	〃	技官		
桜井 良憲	〃	院生		
溝淵 大介	〃	学生		

申請者・協力者			実験課題	区分
氏名	所属・職名			
仁科浩二郎	名大・工	教授	炉雑音測定法による2分割炉心の固有値間隔測定	共同 通常
三澤 毅	〃	助手		
安藤 真樹	〃	院生		
居島 一仁	〃	〃		
後藤 泰志	〃	〃		
橋本 憲吾	近大・原研	助手		
林 正俊	原子炉	〃		
代谷 誠治	〃	〃		
神田 啓治	〃	助教授		
森 千鶴夫	名大・工	教授	位置検出型中性子計数管の特性試験とその応用の研究	共同 通常
瓜谷 章	〃	助手		
柳田 勝男	〃	技官		
羽賀 剛	〃	院生		
ナダ マルナダ	〃	〃		
木村 逸郎	京大・工	教授		
小林 圭二	原子炉	助手		
市原 千博	〃	〃		
代谷 誠治	〃	〃		
山根 義宏	名大・工	講師	低濃縮・不均一体系の燃料インポートランス測定(Ⅱ)	共同 通常
三澤 毅	〃	助手		
安井 肇	〃	院生		
安藤 真樹	〃	〃		
居島 一仁	〃	〃		
後藤 泰志	〃	〃		
吉岡 博貴	〃	学生		
小林 圭二	原子炉	助手		
代谷 誠治	〃	〃		
工藤 和彦	九大・工	教授	臨界炉心中での箔反応率の測定——サンドイッチ法の応用	共同 通常
藤田 政樹	〃	院生		
尾本 篤彦	〃	〃		

申請者・協力者			実験課題	区分
氏名	所属・職名			
七種 明雄	九大・工	院生		
小林 圭二	原子炉	助手		
代谷 誠治	〃	〃		
平川 直弘	東北大・工	教授	箔放射化法による炉心中心スペクトルの推定	共同 通常
松山 成男	〃	助手		
須山 賢也	〃	院生		
イタ・ラディヤンティ	〃	〃		
伊藤 卓也	〃	〃		
小林 圭二	原子炉	助手		
代谷 誠治	〃	〃		
小川 善弘	近大・理工	助手	外部ブランケットを用いた準 稠密格子炉の特性実験	共同 通常
竹田 敏一	阪大・工	助教授		
藤本 博之	〃	院生		
相沢 乙彦	武工大・原研	教授		
長尾 美春	〃	院生		
神田 啓治	原子炉	助教授		
代谷 誠治	〃	助手		
宇根崎博信	〃	〃		

(平成2年8月24日臨界集合体実験装置共同利用委員会)

5. 高中性子束炉（2号炉）計画の撤回と京都大学 原子炉実験所の在り方検討委員会の設置について

当原子炉実験所は、「大学における原子力研究の将来計画」に関する日本学術会議の勧告並びに学術審議会の建議の趣旨をうけて、高中性子束炉（以下「2号炉」という。）建設計画の推進に向けて努力を傾注してきましたが、諸般の事情により具体化をみる事ができず、建設計画後14年が経過しました。

京都大学では、この間における中性子を用いる研究分野の進展並びに国内外における研究炉をめぐむ状況の変化等を慎重考慮の結果、このたび2号炉建設計画の撤回を正式に決定しました。各方面のご要望とご協力を得て進めてきた2号炉建設計画がこのような結論となったことは誠に申し訳な

くかつ残念に思っております。

またこのことに関しては、文部省の学術審議会の「大学における研究用原子炉の在り方について（報告）」が平成2年7月31日に開催された同審議会総会で了承され、文部大臣に報告されました。この報告の内容につきましては、本誌の前号（No.8）12～14頁でその概要を紹介しています。

これらを受けて、京都大学としてKURの在り方及び原子炉実験所の将来について調査検討するため、学内外の学識経験者を構成員とする「京都大学原子炉実験所の在り方検討委員会」を設置することが、去る9月11日に決定されました。同委員会では、今後1年ないし1年半をかけてこれらの問題を検討していくことになっています。

同委員会の委員として、次の方々が11月1日付けで委嘱されました。

京都大学原子炉実験所の在り方検討委員会委員名簿

平成2年11月1日発令

京 都 大 学	工 学 部 長	得 丸 英 勝
”	農 学 部 長	久 馬 一 剛
”	原子炉実験所長	西 原 英 晃
”	” 教授	前 田 豊
”	” 教授	宇津呂 雄 彦
”	化学研究所教授	井 上 信
”	理学部教授	小 林 晨 作
”	医学部教授	阿 部 光 幸
東 京 大 学	工 学 部 教 授	石 樽 顯 吉
大 阪 大 学	工 学 部 長	荻 野 和 己
”	理学部教授	馬 場 宏
”	工学部教授	住 田 健 二
名 古 屋 大 学	工 学 部 教 授	仁 科 浩 二 郎
京 都 大 学	事 務 局 長	上 野 保 之

6. 将来計画短期研究会の開催について

当実験所の将来計画に関する研究会が、下記の要領により開催される予定ですので、ご参加くださるようご案内いたします。

記

日 時 : 平成3年1月25日(金) 午前10時～12時

場 所 : 京都大学原子炉実験所 事務棟会議室

趣 旨 : 実験所の将来計画に関する討論

参加資格 : 特に制限なし。

申込方法等 : 1) はがき、または電話により申込むこと。

2) 申込先 〒590-04 大阪府泉南郡熊取町野田

京都大学原子炉実験所 共同利用掛

電 0724-52-0901 (内) 2151～2

3) 申込期限 平成3年1月19日(土) 必着のこと。

4) 記載事項(次のとおり)

将来計画短期研究会参加申込書

1. 氏名

2. 所属・職名・級号棒

3. ご希望又はご意見の要旨(なるべく詳しく)

4. 宿泊および食事の希望(あれば○、なければ×)

		1月24日(木)	1月25日(金)
昼	食		
夕	食		
宿	泊		

5. その他

7. 原子炉利用研究者グループ総会の開催について

下記のとおり原子炉利用研究者グループ総会を開催いたしますので、ご参集下さるようお願いいたします。

記

日 時 : 平成3年1月25日(金)12時15分～13時

場 所 : 京都大学原子炉実験所 事務棟会議室

議 題 : (1)平成2年度事業報告

(2)平成2年度会計報告

(3)平成3年度の活動方針について

(4)平成3年度の予算について

(5)その他

なお、昼食準備の都合上、ご出席の方は将来計画短期研究会への参加申込時に、昼食の可否をお知らせ下さい。

会員各位からの要望については、あらかじめ事務局あて文書でお知らせ下されば、前日開催予定の幹事会で検討し、実現の見込みのあるものについては総会に諮りたいと思います。

もちろん、総会の席上でご提案下さっても結構です。

8. 第25回原子炉実験所学術講演会プログラム

第25回原子炉実験所学術講演会のプログラムが次のように決まりましたので、お知らせします。
多数の方々のご参加をお待ちしています。

なお、詳しくは学術公開委員長（玉井忠治助教授）または共同利用掛までお問い合わせ下さい。

学術公開委員会

第25回 京都大学原子炉実験所学術講演会プログラム

開催日 : 平成3年1月23日(水) 13:00~24日(木) 17:00

会場 : 京都大学原子炉実験所 事務棟会議室

開会 1月23日(13:00~13:05) 所長 西原 英晃

講演

(13:05~13:25)

- 1) $K_2Ba(NO_2)_4$ の構造相転移(γ -相)
○岩田 豊、小谷野 信光、福井 進、渋谷 巖(京大原子炉)
田中 伸史、石橋 善弘(名大工)

(13:25~13:35)

- 2) 低次元磁性体結晶 $M(HCOO)_2 \cdot 2(NH_2)_2CO$ ($M=Mg, Mn, Zn, Cd$)
の格子定数及び空間群の決定
○RIDWAN、小谷野 信光、岩田 豊、福井 進、渋谷 巖(京大原子炉)

(13:35~13:45)

- 3) $Mg(HCOO)_2 \cdot 2(NH_2)_2CO$ のMULTAN84による精密構造解析
○小谷野 信光、RIDWAN、岩田 豊、福井 進、渋谷 巖(京大原子炉)

(13:45~14:00)

- 4) $Mg(HCOO)_2 \cdot 2(NH_2)_2CO$ の構造と低次元磁性体との関連
○渋谷 巖、岩田 豊、小谷野 信光、福井 進、RIDWAN(京大原子炉)

(14:00~14:20)

- 5) $DyRu_2Si_2$ の高磁場下中性子回折
○繁岡 透、藤原 善幸、岩田 允夫(山口大理)、川野 真治、
見谷 薫史、福井 進、RIDWAN(京大原子炉)

(14:20~14:40)

6) マルチモード核分裂機構の探究

○宮内 貴宏、斎藤 直、高橋 成人、横山 明彦、矢野 大作、森 茂久、
馬場 宏(阪大理)、中込 良廣、玉井 忠治(京大原子炉)

(14:40~15:00)

7) 中性子反射率法による高分子測定

○田崎 誠司、吉田 不空雄、山岡 仁史、海老澤 徹(京大原子炉)

(15:00~15:20)

8) 中性子2次元位置検出器の開発

○杉山 正明、上原 進一、前田 豊(京大原子炉)

----- (休 憩) -----

(15:30~15:50)

9) 極低温ラマン分光法による被照射有機固体の研究

○長谷 博友、石岡 邦江、東村 武信(京大原子炉)

(15:50~16:10)

10) 原子炉照射したダイヤモンドの光学的性質と光機能

○西田 良男、美田 佳三、山田 由美、錦織 均(阪大基礎工)、
岡田 守民、小林 慎江(京大原子炉)

(16:10~16:30)

11) ルチル型結晶の格子欠陥生成における照射温度効果

○中川 益夫、伊藤 寛、中西 俊介、高橋 初乃(香川大教育)、岡田 守民、
川久保 鉄哉(京大原子炉)、跡部 紘三(鳴教大自然)

(16:30~16:50)

12) (Ag, Au)₂X (X=S, Se, Te) 系のメスバウアー

○安藤 学、酒井 宏、木下 将和(広大理)、前田 豊(京大原子炉)

(16:50~17:10)

13) ヨウ素をドーブしたPVA偏光フィルムのメスバウアー分光

○瀬戸 誠、前田 豊、松山 奉史、山岡 仁史(京大原子炉)、酒井 宏(広大理)

(17:10~17:30)

14) 海洋における微量元素の沈降過程

○増澤 敏行(名大水圏研)、高松 武次郎(国立環境研)、川嶋 宗継
(滋賀大教育)、高田 実弥、松下 録治、(故)小山 陸夫(京大原子炉)

(17:30~17:50)

15) 放射能イオンクロマトグラフィーによるセレン同位体の化学種の分布

○竹味 弘勝、木曾 義之(広大工)、玉井 忠治、西川 佐太郎(京大原子炉)

(17:50~18:05)

16) プロトン照射Geより ^{74}As の無担体分離

- 檀原 宏(信大農)、井戸 達雄(東北大サイクロ)、鈴木 信男(東北大理)
- 中野 幸廣(京大原子炉)

1月24日

(9:20~9:40)

17) 放射線適応応答:低線量放射線による遺伝子発現の誘導

- 生島 隆治(京大原子炉)

(9:40~9:55)

18) 京大原子炉における医療照射経験

線量の測定およびその評価からみた照射技術的側面

- 古林 徹、小野 光一、佐藤 孝司、秋吉 恒和、海老沢 徹、田崎 誠司、
神田 啓治、上野 陽里(京大原子炉)、畠中 坦(帝京大医)、三島 豊(神大医)
- 織田 祥史(京大医)

(9:55~10:25)

19) 米国超高中性子束炉(ANS)のRadial Beam Tubeと
Tangential Beam Tubeの比較

- 林 正俊(京大原子炉)、錦織 毅夫(阪大工)、柴田 俊一(近大原研)
- R.G. Alsmille, Jr., R.A. Lillie (ORNL)

(10:25~10:45)

20) トリウム板による14MeV中性子散乱スペクトルの測定と解析

- 林 脩平、市原 千博(京大原子炉)、山本 淳治(阪大工)、
木村 逸郎、金澤 哲(京大工)

(10:45~11:05)

21) トリウムパイル中の14MeV中性子輸送

- 市原 千博、林 脩平、小林 圭二、中村 博(京大原子炉)、
金澤 哲、木村 逸郎(京大工)

(11:05~11:20)

22) BGOシンチレータを用いた中性子捕獲断面積の絶対測定法

- 小林 捷平、山本 修二、藤田 薫頭(京大原子炉)

(11:20~11:40)

23) 中性子ラジオグラフィーの適用について (その1)

—古文化財への適用—

- 増澤 文武(元興寺文研)、辻本 忠、米田 憲司、岡本 賢一(京大原子炉)、
平岡 英一(府庁)、藤代 正敏、辻井 幸雄(府大附研)、阪田 宗彦、
井口 喜晴(奈良博物館)

(11:40~12:00)

24) 中性子ラジオグラフィーの適用について (その2)

—航空機のハニカム構造部に対する適用—

- 大久保 利夫(全日空)、岡本 賢一、米田 憲司、辻本 忠(京大原子炉)、
辻井 幸雄、谷口 良一、藤代 正敏(府大附研)、平岡 英一(府庁)、
平山 一男(阪大工)

特別講演

1月24日

(13:00~14:00)

- 化合物半導体に対する中性子照射効果
川久保 鉄哉(京大原子炉)

(14:00~15:00)

- 粒子線治療としての原子炉治療照射の将来
上野 陽里(京大原子炉)

(15:00~16:00)

- ホットラボラトリーにおける安全取扱設備と各種実験設備整備の経過
岩田 志郎(京大原子炉)

(16:00~17:00)

- 京大での四十年
東村 武信(京大原子炉)

閉会 17:00

9. アニュアルレポートの原稿募集について

当実験所発行のアニュアルレポート第23巻(1990年)は間もなく出版されますが、出版委員会では次号第24巻(平成3年度出版予定)の原稿を募集致します。締切は平成3年4月末の予定ですので投稿を希望される方はあらかじめご準備ください。内容は共同利用研究等、当実験所の施設を利用して行われたオリジナルな研究、及びそれに関連したものの欧文報告に限られ査読者2名がつき Full paper, Short note, Review, Preliminary note, Technical note に分類されます。詳細に関しては投稿要領等がありますので下記宛請求して下さい。(出版委員会)

〒590-04 大阪府泉南郡熊取町野田

京都大学原子炉実験所出版委員会

委員長 岩 田 豊

10. 京都大学原子炉実験所一般公開について

このたび、京都大学原子炉実験所の一般公開が下記のとおり実施されます。

記

日 時 平成3年4月6日(土) 午後1時～4時

場 所 大阪府泉南郡熊取町野田 京都大学原子炉実験所

行 事 ・施設公開

臨界集合体棟、原子炉棟(炉室、ホットラボ)、ライナック棟、トレーサ棟、
ガンマ線照射棟、廃棄物処理棟

・ビデオ上映、展示板揭示

原子炉実験所における研究活動の紹介

申込方法 ・団体(10人以上): 団体名、責任者氏名、連絡先及び電話番号を記入し、見学者名簿
(住所、氏名、年令、職業)とともに申込みして下さい。(郵送可)

・個人の場合: 当日、受付にて申込みしていただきます。

受付は、午後3時30分まで

小学生以下の場合は、付添者同伴でお願いします。

申込・問い合わせ先 〒590-04 大阪府泉南郡熊取町野田

京都大学原子炉実験所 一般公開係

☎ (0724)52-0901 内線 2112

11. 外国人研究者の受入れについて

氏 名 (所 属)	国 籍	研 究 題 目	受入期間	備 考
Damianus Toersiwi Sony Tjahyani (インドネシア原子力庁)	インドネシア	原子炉の安全性に関連する限界 熱流束実験	H 2.10.1 ～3.3.31	研究生
Ridwan (インドネシア原子力庁)	インドネシア	中性子回折による構造相転移の 研究	H 2.10.17 ～3.10.16	研修員 (継続)
Abdelkhalek Alexandre Ezzidi (国立自然科学研究センター)	フランス	原子炉の安全性に関連する二相 流モデル化の研究	H 2.10.1 ～3.9.30	外国人共同 研究者

12. 外国人研究者講演会報告

平成2年8月以降原子炉利用研究者グループの後援により、下記のような講演会が行われました。

① 平成2年9月17日開催

"Kinetics of Electrons in Non-Homogeneous Systems"

Dr. G. K. Freeman

(Edmonton University, Canada)

② 平成2年10月3日開催

"Structural and Magnetic Studies of Iron in the Proteins Ferritin and
Hemosiderin"

Prof. John Webb and Dr. Tim St Pierre

(Murdoch University, Australia)

13. 審議員の異動

当実験所 松村隆教授が平成2年10月1日付けで、審議員に発令されました。

14. 運営委員会委員名簿

9月30日付け任期満了委員の後任委員が決定され、10月1日現在の委員は次の通りとなりました。
 なお、☆印の委員の方の任期は平成2年10月1日～平成4年9月30日までの2年間です。その他の委員の方（京都大学事務局長を除く）の任期は平成3年9月30日までとなっています。

北海道大学	助教授	(工)	佐藤正知
東北大学	教授	(科学計測研)	池沢幹彦
名古屋大学	助教授	(工)	中島敬行☆
徳島大学	"	(業)	桜井弘
広島大学	"	(原爆放医研)	丹羽太貫
"	"	(工)	竹味弘勝☆
九州大学	教授	(応用力学研)	蔵元英一
"	助教授	(理)	阿知波紀郎☆
京都教育大学	"	(教 育)	武蔵野 實
東京理科大学	教授	(業)	久保寺昭子☆
京 都 大 学	"	(放射性同位元素総合センター)	栗原紀夫☆
"	助教授	(工)	小林啓祐☆
"	事務局長		上野保之
"	教授	(原 子 炉)	澁谷 巖
"	"	(")	藤田薫頭
"	"	(")	岡野事行
"	"	(")	山岡仁史
"	"	(")	宇津呂雄彦
"	"	(")	前田 豊
"	助教授	(")	岩田 豊
"	"	(")	川瀬洋一
"	"	(")	三島嘉一郎
"	"	(")	清水良明
"	"	(")	赤星光彦
"	"	(")	齊藤真弘

15. 臨界集合体実験装置共同利用委員会委員名簿

9月30日付け任期満了委員の後任委員が決定され、10月1日現在の委員は次の通りとなりました。
 なお、☆印の委員の方の任期は平成2年10月1日～平成4年9月30日までの2年間です。その他の委員の方（臨界装置部長藤田委員、臨界装置主任技術者神田（啓）委員を除く）の任期は平成3年9月30日までとなっています。

東北大学	助教授	（工 学 部）	北 村 正 晴☆
東京大学	教 授	（工学部附属原子力工学研究施設）	岡 芳 明
名古屋大学	同	（工 学 部）	仁 科 浩二郎
大阪大学	助教授	（ 同 ）	竹 田 敏 一☆
九州大学	教 授	（大学院総合理工学研究科）	神 田 幸 則
日本原子力研究所	室 長	（東海研究所原子炉工学部）	中 野 正 文☆
京都大学	助教授	（工 学 部）	小 林 啓 祐☆
同	教 授	（原 子 炉 実 験 所）	藤 田 薫 顕
同	助教授	（ 同 ）	神 田 啓 治
同	同	（ 同 ）	長 谷 博 友
同	同	（ 同 ）	清 水 良 明

16. 平成2年度非常勤講師について

平成2年度非常勤講師として、次のとおり委嘱しました。任期は平成2年10月1日から平成3年3月31日までです。

所 属	職 名	氏 名	題 目	受 入 部 門
大阪大学 理学部	教 授	小林 雅通	1. 振動分光による分子凝集系の構造・物性研究	原子炉設備関係部門
			2. 低周波数フォノン励起と構造多形および相転移	計測装置関係部門
長崎大学 医学部 附属原爆後障害 医療研究施設	教 授	奥村 寛	ハイパーサミアの生物作用 ーがん細胞を中心にー	放射線管理関係部門 附属原子炉医療基礎 研究施設

17. 職員の異動

1. 昇 任

平成2年9月1日付け	原子炉研究部門 (同部門助手から)	助教授	小林 捷 平
平成2年9月1日付け	原子炉計測制御研究部門 (原子炉研究部門助手から)	助教授	代 谷 誠 治
平成2年9月1日付け	原子炉設備研究部門 (同部門助手から)	助教授	吉 田 不空雄
平成2年9月1日付け	核生物学研究部門 (放射線管理研究部門助手から)	助教授	松 原 一 丘

2. 転 任

平成2年10月1日付け	放射線管理研究部門 (国立療養所宇多野病院から)	助 手	尾 崎 承 一
-------------	-----------------------------	-----	---------

3. 採 用

平成2年10月1日付け	放射線管理研究部門	教 授	松 村 隆
-------------	-----------	-----	-------

18. 委員会メモ（平成2年8月～平成2年10月）

平成2年8月9日	臨時運営委員会
10日	臨時協議員会
15日	平成2年度第2回原子炉医療委員会
17日	審議会・協議員会
21日	臨時協議員会
24日	第70回臨界集合体実験装置共同利用委員会 平成2年度第5回原子炉安全委員会
31日	協議員会（回議）
9月6日	平成2年度第3回原子炉医療委員会（回議）
14日	臨時協議員会
19日	平成2年度第4回原子炉医療委員会
21日	審議会・協議員会

25日 臨時原子炉安全委員会
28日 平成2年度第2回保健物理委員会
平成2年度第6回原子炉安全委員会
10月2日 協議員会（回議）
12日 第140回運営委員会
19日 審議会・協議員会
26日 平成2年度第7回原子炉安全委員会
27日 平成2年度第5回原子炉医療委員会

編 集 後 記

秋冷の候を迎え皆様には益々研究にお励みの事と存じます。本号より編集委員の一部交代が在りました。

KURの将来計画であります、前号に掲載されております様な学術審議会の答申を受けて京都大学に「在り方検討委員会」が設けられました。立地条件が整わなくなった現在、高出力2号炉の建設の撤回は止むを得ない事と思われませんが、KURの整備については現在の全国共同利用者の最も注目している点ではないでしょうか。どのような形で行われるにせよ、より効率的な共同利用環境の整備は望まれている所です。今後の動向にご注目下さい。